

災害の記憶話と記録ひにふれて

高知小学校 3年 中山 暉一朗

昨年の夏、家族旅行の前に発令された南海トラフ地震臨時情報をきっかけに、ぼくの家は災害のことを積極的に知ろうという雰囲気ができました。

まず、高知県土木部防災砂防課のホームページにある「みんなで学ぼう。なぜ？なに？土砂災害（ことどもヴェール）」を読むことから始めました。この冊子はカラー刷りで、読ん

でみたい、見てみたいと思える作りになっていて、しかも、イラストが文字の多さを和らげてくれて、二年生だったぼくでも読み進められました。特に、「避難のタイミングととるべき避難行動」のおかげで、ニュースでよく耳にする言葉の意味を「なんとなく」から「しっかり」と理解できるようになりました。さて、三年生の夏休みをむかえました。今年も昨年と同様に、災害について考えることにし、家族で話し合いました。

その中で、お父さんが経験した一九九八年八月の「高知豪雨」が話題になりました。

この出来事は、今から二十七年前のことで、先ほど紹介した子供向けの冊子にはの「ていませんでしたが、大人向けの冊子「知「ち「う！備えち「う！高知の土砂災害（大人「に記事があり、人的被害八名、家屋被害百四十一棟とあります。人的被害の数字はしげとう災害、昭和五〇五一年連年災害と比べると少ないですが、この「とをも「て災害

への備えが十分に行き届いていると甘く見てはいけませんし、人の命は絶対に守らなければいけません。

また、驚いたことに、お父さんがこの豪雨の経験者でした。その記憶話で、特に、「夜の塾帰り、車に水があた「て、ごぼごぼ！ごぼ「！と不気味な音がしてこわか「た「今思えば、いつもと違う雨降り、道路事情も変だ「た「異変は、翌朝、茶色の湖と化した大津地区を見て確信した「などと聞き、冊子

の人的被害や家屋被害の数が一層重たく感じ  
ました。さらに、「いつもと違う」雨降りとい  
った点は、教訓の「深夜の猛烈な雨で大き  
な被害に。気象情報は随時確認をするのじゃ  
！」とあるとおり気象情報の適切な理解も大  
切だと改めて感じました。

そして、今、ぼくは、その豪雨の記録を  
なる「大津地区水害記録」の前に立って  
ます。記録を見上げると、赤色の矢印が上  
面の一辺を指し、その矢印の下に、「一九九

八年九月二十五日、集中豪雨最高水位」と文  
字があります。記憶話とあわせて見ると、本  
当にこんなところまで水がきていたんだ！信  
号機も見えなくなるくらいだ！と知りまし  
た。記録には、ぼくに災害の大きさを実感させ  
くれたばかりでなく、「日頃から災害に備え  
て命を守ろう」という「たえかけてくるよう  
でした。

今後、災害への備えをし「かりや、ていこ  
う」と思います。